

インクルーシブの窓

令和7年9月 富山県教育委員会 教育みらい室 特別支援教育課



子供の学びや発達をつなぐことを大切にしましょう！



5歳児から小学校1年生までの2年間は「架け橋期」と言われ、子供の生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために特に大切な時期とされています。

そのような架け橋期の教育を充実させるための「幼保小の架け橋プログラム」の取組が全国的に行われています。子供の成長を中心に据え、発達の段階を踏まえた連続性、一貫性のある教育を目指して、子供に関わる多くの関係者が連携していくことが求められるようになってきているのです。

さて、現行の「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示）では、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が示されていることをご存知でしょうか？

- (1) 健康な心と体
- (2) 自立心
- (3) 協同性
- (4) 道徳性・規範意識の芽生え
- (5) 社会生活との関わり
- (6) 思考力の芽生え
- (7) 自然との関わり・生命尊重
- (8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- (9) 言葉による伝え合い
- (10) 豊かな感性と表現

遊びは学び
学びは遊び
“やってみたいが
学びの芽”

※「幼児教育の重要性お知らせポスター」（文部科学省）より引用

これらの姿は、小学校入学までに到達すべき目標ではありません。また、個別に取り出して指導されるものでもありません。幼児の自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特性に応じて相互に関連し合い、総合的に育っていく姿なのです。



本県においても、市町村教育委員会が中心となって、保育者と教員が参加する合同研修会等が各地で行われ、幼保小接続の重要性が認識されています。

保育者と教員が互いによりよく理解し合うために作成された「わくわく・きときと接続ガイドⅡ」は、子供の学びの様子や保育と教育のつながりを分かりやすく紹介しています。右の二次元コードからご覧になれます。ぜひ、ご活用ください。



<引用・参考>

幼児教育パンフレット『一人一人のよさを未来へつなぐ ― 学校教育のはじまりとしての幼稚園教育 ―』
（文部科学省初等中等教育局幼児教育課）